

※※2014年4月改訂(第6版)
※2006年2月改訂(第5版)

日本標準商品分類番号 8 7 5 2 0 0

漢方製剤
SKM9
商品番号

承認番号:(61AM)第3978号

薬価収載:1988年7月

販売開始:1988年8月

※※再評価結果:1995年3月
2014年4月

しょうさい こうとう

サカモト小柴胡湯エキス顆粒

貯法:取扱上の注意の項参照

【警告】

1)本剤の投与により、間質性肺炎が起こり、早期に適切な処置を行わない場合、死亡等の重篤な転帰に至ることがあるので、患者の状態を十分観察し、発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常(捻髪音)、胸部X線異常等があらわれた場合には、ただちに本剤の投与を中止すること。

2)発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。

(「重大な副作用」の項参照)

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

- 1) インターフェロン製剤を投与中の患者
(「相互作用」の項参照)
- 2) 肝硬変、肝癌の患者
[間質性肺炎が起こり、死亡等の重篤な転帰に至ることがある。]
- 3) 慢性肝炎における肝機能障害で血小板数が $10\text{万}/\text{mm}^3$ 以下の患者
[肝硬変が疑われる。]

【組成・性状】

組成	本品7.5g中、下記の混合生薬より抽出した水製乾燥エキス4.2gを含有する。 日局サイコ……7.0g 日局タイソウ……3.0g 日局ハンゲ……5.0g 日局カンゾウ……2.0g 日局オウゴン……3.0g 日局ショウキョウ……1.0g 日局ニンジン……3.0g	
	添加物	日局トウモロコシデンブン、日局軽質無水ケイ酸、日局合成ケイ酸アルミニウム、ヒドロキシプロピルセルロース、日局ステアリン酸Mg
性状	剤形	顆粒剤
	色	茶褐色
	におい	特異なにおい
	味	初めやや甘く、後に苦い
識別コード	SKM9	

※※【効能・効果】

1. 体力中等度で上腹部がはって苦しく、舌苔を生じ、口中不快、食欲不振、時により微熱、悪心などのあるものの次の諸症：
諸種の急性熱性病、肺炎、気管支炎、気管支喘息、感冒、リンパ腺炎、慢性胃腸障害、産後回復不全
2. 慢性肝炎における肝機能障害の改善

【用法・用量】

通常、成人1日7.5gを2~3回に分割し、食前又は食間に経口投与する。なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

【慎重投与】(次の患者には慎重に投与すること)

- 1) 著しく体力の衰えている患者[副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。]
- 2) 慢性肝炎における肝機能障害で血小板数が $15\text{万}/\text{mm}^3$ 以下の患者
[肝硬変に移行している可能性がある。]

【重要な基本的注意】

- 1) 慢性肝炎における肝機能障害で本剤を投与中は、血小板数の変化に注意し、血小板数の減少が認められた場合には、投与を中止すること。
- 2) 本剤の使用にあたっては、患者の証(体質・症状)を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。
- 3) 本剤にはカンゾウが含まれているので、血清カリウム値や血圧値等に十分留意し、異常が認められた場合には投与を中止すること。
- 4) 他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。

【相互作用】

1) 併用禁忌（併用しないこと）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
インターフェロン製剤 インターフェロン- α インターフェロン- β	間質性肺炎があらわれることがある。 （「重大な副作用」の項参照）	機序は不明

2) 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
1) カンパウ含有製剤 2) グリチルリチン酸及びその塩類を含有する製剤 3) ループ系利尿剤 フロセミド エタクリン酸 4) チアジド系利尿剤 トリクロルメチアジド	偽アルドステロン症があらわれやすくなる。また、低カリウム血症の結果としてミオパチーがあらわれやすくなる。 （「重大な副作用」の項参照）	グリチルリチン酸および利尿剤は、尿細管でのカリウム排泄促進作用があるため、血清カリウム値の低下が促進されることが考えられる。

【副作用】

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

1) 重大な副作用

- 間質性肺炎：発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常（捻髪音）等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。また、発熱、咳嗽、呼吸困難等があらわれた場合には、本剤の服用を中止し、ただちに連絡するよう患者に対し注意を行うこと。
- 偽アルドステロン症：低カリウム血症、血圧上昇、ナトリウム・体液の貯留、浮腫、体重増加等の偽アルドステロン症があらわれることがあるので、観察（血清カリウム値の測定等）を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- ミオパチー：低カリウム血症の結果として、ミオパチー、横紋筋融解症があらわれることがあるので、脱力感、筋力低下、筋肉痛、四肢痙攣・麻痺、CK (CPK) 上昇、血中及び尿中のミオグロビン上昇が認められた場合には投与を中止し、カリウム剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- 肝機能障害、黄疸：AST (GOT)、ALT (GPT)、 Al-P 、 γ -GTPの著しい上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2) その他の副作用

	頻度不明
過敏症 ^{注1)}	発疹、瘙痒、蕁麻疹
消化器	食欲不振、胃部不快感、悪心、嘔吐、腹痛、下痢、便秘等
泌尿器 ^{注2)}	頻尿、排尿痛、血尿、残尿感、膀胱炎等

注1) このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。

注2) このような症状があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

【高齢者への投与】

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

【妊婦、産婦、授乳婦等への投与】

妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ投与すること。

【小児等への投与】

小児等に対する安全性は確立していない。〔使用経験が少ない〕

【取扱上の注意】

<貯法>

- 直射日光をさけ、なるべく湿気の少ない涼しい所に保管して下さい。
- 誤用をさけ、品質を保持するために他の容器に入れかえないで下さい。
- 開封後は特に湿気をさけ、フタをよく閉める等、取り扱いに注意して下さい。

【包装】

5 0 0 g、2.5 g×2 9 4 包、2.5 g×8 4 包

【主要文献】

原典：傷寒論、金匱要略

解説書：大塚敬節、矢数道明 監修：経験漢方処方分量集、医道の日本社

【文献請求先】

株式会社 阪本漢法製薬研究開発部

〒661-0021 尼崎市名神町1丁目5番12号

※ 製造販売元

株式会社 阪本漢法製薬

〒530-0057 大阪市北区曾根崎2丁目7番4号